

教えて センセイ

川上浩司先生に聞く〈不利益の話〉



便利一辺倒ではなく、
不便で良かったことを再評価してみませんか。

これからは不利益による価値を見直す時代

私はシステム工学を専門としていますが、「自動化」「効率化」「高機能化」等を最優先とするこの分野において、不便ゆえにもたらされる「価値」(「不利益」: benefit of inconvenience)に注目し、人とモノの関係性のこれからについて研究しています。ちょっと難しく聞こえるかもしれませんが、身の回りやこれまでの経験において「不便だけど良かったこと」は案外見つかります。よく共感されるのが小学校時代に「今日は白いところだけを歩いて帰る」という遊びです。ルールに縛られるのは不便ですが、いつもと違う道を通り、新しい何かを発見するとか、そんなドキドキ感是不便だからこそ得られた益です。家まで帰ることができたら達成感も得られます。同様に、遠足のおやつ300円以内というルールも不便を強いられていますが、店

た。同じタイミングで師匠が新たに研究室を立ち上げたとき、また一緒に人工知能を研究するつもりでしたが、いきなり「これからは不利益をやるぞ」とおっしゃったんです。突然のことでも最初は「えっ、それナニ?」とスルーしていましたが(笑)。師匠は教授室にこもらず、学生室に向き、たいていそこでコーヒーを飲みながら学生たちと議論されるんですが、不利益について熱く語られるのを聞いてうちに、効率化や自動化だけを盲信するのではなく、人にとって大切な視点を工学部的な発想で研究できるのではないかと思うようになりました。師匠に言わせれば「なんでも自動化してくれるコンピュータなんか設計しておもしろいか?」という問いかけだったのかもしれませんが。

不利益には人を豊かにさせるヒントが詰まっている

不利益の発想から生まれたモノとして、ロングセラーを誇るおもしろいグッズがあります。京大生協のヒット商品「素数ものさし」です。2012年京大のサマーデザインスクールというイベントで、不利益デザインチームから出てきたアイデアを商品化しました。日用品を不便にしてみようというお題に、ものさしならどうだろうかと投げかけたところ、ある学生が「目盛りが歯抜けになっていたら不便」といい、別の学生が「目盛りを素数だけにしてみたら」というやりとりから生まれたものです。4の目盛りはないので、4cmの線を引きたかったら3から7で、6cmなら5から11の目盛りで引いたらいいのです。少し考える必要があるため、楽ではないですが、楽しく使うことができます。実用性もそんなに悪くありません。

世の中には先の就活生や素数ものさしのように、あえて不便なモノやコト(システム)を作り、良いことが得られる事例が結構あります。私が主宰する不利益システム研究所ではそれらを勝手に「!?」「不利益認定」し、新しいデザイン指針を探るヒントにしています。そのお手本を紹介しましょう。東京郊外のある幼稚園は園庭が平らではなく、デコボコになっています。困難な環境という不便を作ることで園児がイキイキし、活動量が増えているそうです。山口県のデイサービスセンターは「バリアフリー」ではなく、段差や長い廊下、階段等、日常にあるバリアを意図的に配置した「バリアアリー」施設として注目されています。乗り越えないといけない不便が身体能力の低下を緩やかにさせ、機能を回復させようという意欲につながるようです。

で計算しながら自分好みのお菓子を買い揃えた努力は楽しい思い出です。さらにこんな話もあります。就職氷河期といわれた頃、ある学生はあえて新聞の購読をやめ、毎朝コンビニまで買いに行くようにしたそうです。手間をかけているので、新聞を放置することなく隅々まで記事を読むクセがつき、結果、内定をたくさんもらったといえます。これも不便によって得られた益です。

昔は不便なことがたくさんありましたが、不利益とはそのようなノスタルジーを推奨するものではありません。不便だけど良かった点とはどういうものかを分析し、新しいモノやシステムを作るときに活かしていく発想をいいます。この発想を提唱されたのは京都大学の片井修教授で、人工知能研究を指導してくださった師匠でもあります。私は人が楽になれることを目的に人工知能研究に没頭し、26年前、京大に助教として戻ってきました。足の不自由な人のための車いすなのに、自転車のようなペダルをつけ、自分でこぐ「足こぎ車いす」というユニークな商品があります。リハビリ効果はもちろんのこと、自分の力で移動できる希望を感じられるところに不利益らしさを感じます。便利を追求するのであれば、電動サポートによる自動衝突回避などいくらでも機能を高めることはできますが、まだ自分の足でこげるぐらいの人なら、自分で動く方がうれしいものではないでしょうか。

便利なオートマ車が大多数を占めている中、独自の運転を編み出せるマニュアルトランスミッションを好む人が一定数存在するのも同じ理由かもしれません。マニュアル車は操作が多くて難しいですが、それによって身体の延長的な意識を感じられるのだらうと思います。ちなみにイタリアでは、彼女に振られた理由が「車がオートマだったから」という小啾があり、ヨーロッパのどの国でもそのジョークが通じるそうです。ヨーロッパではマニュアル車のほうが車を乗りこなしてかっこいいという益があるのですね。

新しいモノゴトを作ろうとするとき、「便利がいいに決まっている」という常識を疑い、不利益の発想を取り入れてみると、これまでにない気づきやおもしろい切り口が見つかるかもしれません。また、不便な状況に陥ったとき、誰も無条件にネガティブな感情をもちませんが、実はそこに益があるんじゃないかと考えると、思考停止にならず、楽しい気分になれるそうです。道に迷った店を見つけたことに価値を感じるように……10分ぐらい早く家に着くことにそんな大きな価値はないのです。不利益は視野を広げ、ポジティブな気持ちにさせてくれますが、どう考えても益がないこともあります。そのときは「この不便に益がないことに気づけた!」とそんな自分を褒めることとしましょう(笑)



写真上/竹製で目盛りの焼き印が手作業の「素数ものさし」。京都らしいお土産としても人気だ。写真右/ナイフで削った鉛筆。「鉛筆削りより不便ですが、ナイフだと好みの形状に削れますね。私は便利なケータイを持ったことがないので、情報の波によって時間を奪われることはありません。移動中は外の景色を楽しむなど、ゆったり過ごします。電話連絡は公衆電話で十分事足りす」



写真左/川上さんの新著「不利益のススメ」(2019)。不利益の発想や事例を写真やイラストを交え、わかりやすく紹介。